

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 3月 3日
Date of Application:

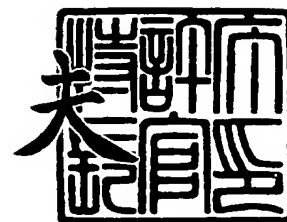
出願番号 特願2003-056280
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2003-056280]

出願人 日本ビクター株式会社
Applicant(s):

2004年 2月17日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康



出証番号 出証特2004-3009959

【書類名】 特許願

【整理番号】 414001111

【提出日】 平成15年 3月 3日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G02F 1/133

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3 丁目 1 2 番地 日本ビクター株式会社内

【氏名】 清水 滋雄

【特許出願人】

【識別番号】 000004329

【氏名又は名称】 日本ビクター株式会社

【代表者】 寺田 雅彦

【代理人】

【識別番号】 100090125

【弁理士】

【氏名又は名称】 浅井 章弘

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 049906

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9200896

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像表示装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 デジタル化された画像信号を、複数の画素がマトリクス状に配置された表示手段に印加して表示するに際して、動画像擬似輪郭の発生を抑制するため、前記画像信号の 1 フィールドを複数のサブフィールドにより構成し、前記サブフィールドを配列順に従って選択的にオン、またはオフ表示して前記画像信号に基づいた画像を表示する画像表示装置において、

前記表示手段の温度を検出する温度検出部と、

前記温度検出部の検出値に応じて、前記表示手段のガンマ特性の変化を補償するように前記パルス信号のパルス電圧値を制御するパルス電圧値制御部と、

を備えたことを特徴とする画像表示装置。

【請求項 2】 前記パルス信号は、前記分割された複数のサブフィールドの期間に応じて形成された第 1 のパルス信号と、

前記デジタル化された画像信号に応じて形成された第 2 のパルス信号とよりなることを特徴とする請求項 1 記載の画像表示装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、デジタル信号で駆動するアクティブマトリクス型の画像表示装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、アクティブマトリクス型の画像表示装置を駆動する方法は、アナログ信号で液晶の駆動電圧を制御するのが一般的であった（例えば特許文献 1）。そして、液晶モードとして、VA（Vertical Aligned）やMTN（mixed-mode Twisted Nematic）が使用され、特にコントラスト比を向上させるために、VAが使用されている。この種の画像表示

装置は、アクティブマトリックス基板と対向基板との間に液晶を封入して多数の画素を形成し、各々の画素に画像信号を書き込み、それを画素各々に付属するコンデンサ（信号補助容量）に蓄積して、液晶を駆動するようになっている。

【0003】

この方式では、液晶にかかる電圧は、時間的には一定で、信号レベルに応じて変わることによって階調を表現することから、階調性を取ることは容易であるが、信号レベルにノイズが乗り易く、疑似信号の影響を受け易いという欠点を持つほか、液晶に対して直流成分がかかり易く、それに伴う画像の残りやパネル寿命に問題があった。

これに対して、アナログの画像信号をデジタル信号に変換し、液晶にパルス的に電圧を印加して、液晶を駆動させるデジタル駆動方法がある。例えば、1フィールド（1TVフィールド）を複数のサブフィールドに分割し、このサブフィールド毎に点灯／非点灯を制御する方式がある。この方式には重み付けをしたサブフィールドを用いる方法、フィールド内分散法やCLEAR駆動方式が知られている（例えば特許文献2）。

【0004】

【特許文献1】

特開平11-174410号公報

【特許文献2】

特開2001-343950号公報

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、この種のデジタル型の画像表示装置ではアナログの画像信号は通常は例えば8ビットのデジタル信号に変換され、そして、この画像信号はCRTの逆ガンマ特性を前提としたものである。そして、液晶を駆動する時の駆動電圧と出射強度との関係はS字型になるので、上記画像信号は、階調レベルを正しく表現できるようにするために、ガンマ特性に対応した重み付けを行うルックアップテーブルを参照しつつデジタル信号に変換される。

【0006】

しかしながら、上記デジタル式の駆動方式では、液晶の応答速度が変化した場合に、図7に示す様にガンマ特性が変化してしまうデメリットがあった。図7では液晶温度が40.7℃の時のガンマ特性を基準”1”としてガンマ特性の温度依存性を示し、256ビット（階調）の各ビット毎に比較を行っている。温度は34.1℃～50.4℃まで変化している。この図から明らかなように、特に、256階調（8ビット／単色）の中間調である50から100ビットの部分の階調変化が大きい。これは、温度が変化すると液晶の物性が変化し、入力パルス信号に対する応答が変化してしまうために発生する。液晶の物性の変化の原因は、誘電率や、弾性常数や、粘度等があるが、最も大きい影響があるのは液晶の粘度である。

【0007】

ここでは、液晶の応答速度よりも早いパルスで駆動している。このような状態の際、同じパルス信号のパターンでも、液晶の応答速度が速くなると、単一駆動電圧パルスに対する追従性が良好となって出力が大きくなるが、複数の駆動電圧パルスに対しては、パルス間の電圧がかからない部分への応答性が高まるために、出力が下がる傾向がある。逆に液晶の応答速度が遅くなると、逆の原理で、単一駆動電圧パルスへの追従性が悪く、複数の駆動電圧パルスに対しては、出力が高くなる変化を起こす。これが、中間調でのガンマ特性の変動の要因の1つとなっている。このような液晶の粘性の違いで発生するガンマ特性の変化は、単に出力を増加させたり、減少させたりすることで修正できる様なものではなく、変化が非線形的に発生するため、適当な補正方法が無かったのが現状である。

【0008】

本発明は、以上のような問題点に着目し、これを有効に解決すべく創案されたものである。本発明の目的は、温度に依存して変化する例えば液晶等の表示手段のガンマ特性を補償することが可能な画像表示装置を提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】

請求項1に係る発明は、デジタル化された画像信号を、複数の画素がマトリクス状に配置された表示手段に印加して表示するに際して、動画像擬似輪郭の発生

を抑制するため、前記画像信号の 1 フィールドを複数のサブフィールドにより構成し、前記サブフィールドを配列順に従って選択的にオン、またはオフ表示して前記画像信号に基づいた画像を表示する画像表示装置において、前記表示手段の温度を検出する温度検出部と、前記温度検出部の検出値に応じて、前記表示手段のガンマ特性の変化を補償するように前記パルス信号のパルス電圧値を制御するパルス電圧値制御部と、を備えたことを特徴とする画像表示装置である。

この場合、例えば請求項 2 に規定するように、前記パルス信号は、前記分割された複数のサブフィールドの期間に応じて形成された第 1 のパルス信号と、前記デジタル化された画像信号に応じて形成された第 2 のパルス信号とよりなる。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下に、本発明の画像表示装置の実施の形態について説明する。

図 1 は本発明の画像表示装置を示す構成図、図 2 は 1 つの画素に対するパルス駆動回路の一例を示す図、図 3 は階調レベルとサブフィールドとの関係を示す図、図 4 は温度に対する補償係数の一例を示す図である。尚、ここでは画像表示装置として液晶を用いた液晶表示装置を例にとって説明するが、これに限定されず、本発明は、プラズマ画像表示装置、有機エレクトロルミネッセンス画像表示装置（有機 EL）等の他の画像表示装置にも適用することができる。

図 1 にはアクティブマトリックス型の画像表示装置の構成例が示されており、この画像表示装置 2 の表示手段としての液晶表示部 4 は、アクティブマトリックス基板 6 上に、複数の列信号電極 D 1、D 2、D 3、…D i が並行して配置されており、これら各列信号電極 D 1、D 2、D 3、…D i と直交する方向に複数の行走査電極 G 1、G 2、G 3、…G j が配置されている。また各列信号電極 D 1～D i に対応して、これらの反転信号を流すための反転信号用の列信号電極 *D 1～*D i がそれぞれ設けられる。尚、以降、符号 D 1～D i 及び *D 1～*D i をまとめてそれぞれ符号 D 及び *D と表し、符号 G 1～G j をまとめて符号 G と表す場合がある。各列信号電極 D と行走査電極 G の交差部には、画素 P x が配置されている。

【0011】

列信号電極駆動回路100はシフトレジスタSR1～SR20、DSR1～DSR20及び上記列信号電極D1～Di、*D1～*Diを個別にオンオフに切り替えるスイッチ切り替え回路8により構成されている。

この列信号電極駆動回路100には第1と第2フレームメモリ10、12が接続されている。外部より入力される画像信号は、この信号がアナログ信号の場合は、AD変換器14にてデジタル信号に変換される。サブフィールド変換回路16は、上記デジタル信号をサブフィールドのパルス信号に変換するものであり、この出力信号は上記第1及び第2フレームメモリ10、12へ入力される。

【0012】

ルックアップメモリ18は、図3に示すようなルックアップテーブルを記憶しており、このルックアップテーブルに基づいて上記サブフィールド変換回路16はパルス信号を形成する。図3に示すように、ここでは1つのフィールドが例えばSF1～SF19で表される19のサブフィールドにより分割されて構成されており、各サブフィールドの期間（以下、「サブフィールド期間」とも称す）はそれぞれ異なっており、1フィールドの中で最初のサブフィールドSF1のサブフィールド期間（30nm）が最も短く、1フィールドの最後のサブフィールドへ進むに従って暫時長くなっていくようにサブフィールド列が配置される。その結果、最後のサブフィールドSF19のサブフィールド期間（305nm）が最も長い。

【0013】

更に隣接するサブフィールド同士のサブフィールド期間の差は、サブフィールド期間が長くなるに従って、同一或いは順次短くなるように設定されている。またこの図3では256の階調レベルに分割されており、オン状態にして点灯表示すべきサブフィールドに“1”が示されている。図3では256の階調レベルの一部のみが記載されており、他の部分のレベルの記載は省略している。

そして、このような構成の列信号電極駆動回路100では、スイッチ切り替え回路8のスイッチ群を順次オン状態にすることにより、1水平期間の映像信号を順次列信号電極D1、D2、D3、…Di、*D1～*Diにサンプリングする。

。

【0014】

一方、行走査電極駆動回路102は、全表示行数に相当する段数を有する垂直シフトレジスタを含んで構成されている。この垂直シフトレジスタは、各行走査電極G1、G2、G3、…Gjに対して1水平期間毎（行毎）に順次走査パルスを出力する。その結果、各行走査電極G1、G2、G3、…Gjに接続した画素スイッチングトランジスタ（後述する）が1行ずつ順次オンとなり、D1、D2、D3、…Di、*D1～*Diにサンプリングしたパルス電圧が1行の画素Px毎に印加される。

図2に1つの画素Pxに対応するパルス駆動回路の一例を示す。

このパルス幅変調によるデジタル駆動で液晶を駆動する場合には、各電極電位が固定され、電極間の浮遊容量の影響が極めて受けにくい構造になっている。その結果、画像表示上の問題はアナログ駆動に比較して少ない。

【0015】

このパルス駆動回路は、入力データを保持するSRAM（スタティックRAM）回路20と、そのデータを画素電極へ転送するバッファ回路22からなる。上記SRAM回路20は、トランジスタTr1～Tr4により構成されたフリップロップ回路で情報を記憶する。そして、スイッチS2、S1がそれぞれ列信号電極D及びこのデータの反転信号が流れる他方の列信号電極*Dに接続される。

各列信号電極D、*Dに流れるパルス信号よりなる表示信号データに同期し、ゲートにつながる行走査電極Gにパルスを入力し、データをSRAM回路20に一時的に保持する。バッファ回路22は図示しないスイッチを含み、外部のパルス幅変調器24からスイッチをオン・オフしてパルス波を形成する信号が入力され、オン時にSRAM回路20に保存されたデータが画素電極26を介して液晶LCに加わり、液晶分子が駆動する。尚、このパルス幅変調器24の出力は各画素Pxに共通に接続される。また、各画素電極26と透明な共通電極CEとの間に液晶が封入されるが、ここではその記載を省略している。

【0016】

そして、上記パルス幅変調器24には、前記液晶表示部4の温度によるガンマ特性の変化を補償するように、上記パルス信号のパルス電圧値を制御するパルス

電圧値制御部 28 が接続される。そして、このパルス電圧値制御部 28 には、上記液晶表示部 4 の温度を検出するために例えば熱電対よりなる温度検出部 30 が接続されて、液晶 LC の温度を検出して上記パルス電圧値制御部 28 へ入力するようになっている。

この温度検出部 30 である熱電対は、例えばアクティブマトリクス基板 6 へ埋め込むようにして設置することができる。そして、上記パルス電圧値制御部 28 は、温度と補償係数との関係を定めた係数テーブルを予め記憶した係数メモリ 32 を有しており、この係数テーブルを参照してパルス電圧値を可変的に設定し得るようになっている。この係数メモリ 32 に記憶される係数テーブルの内容は、図 4 に示すようなグラフの内容をテーブル化したものであり、この図 4 の内容は図 7 に示したような出力比特性を補償するように、これと略逆特性となるような特性曲線となっている。

【0017】

次に、以上のように構成された画像表示装置の動作について説明する。

本発明装置の動作の特徴は、温度検出部 30 により液晶の温度を検出し、液晶のガンマ特性が一定となるように上記検出値に基づいて画素電極 26 へ加えるパルス電圧の電圧値を調整するようにしている点である。

まず、入力される画像信号は、これがアナログ信号の場合は AD 変換器 14 を介してデジタル信号に変換され、デジタル信号の場合は直接的にサブフィールド制御回路 16 に入力される。このサブフィールド変換回路 16 は、入力された画像信号を、各画素 P_x に対応する画素信号を図 3 にて説明したように予め決められたサブフィールド期間をもつ、例えば 19 ビットのサブフィールドに変換する回路である。具体的には、入力される画像信号の階調レベルに応じて変換すべき情報が予め記憶されたルックアップメモリ 18 のルックアップテーブル（図 3 参照）によって、所定の数、例えば 19 のサブフィールドに画像信号が分割される。尚、サブフィールドの数は 19 に限定されず、これ以上でもこれ以下でもよい。

【0018】

このサブフィールド変換回路 16 は書き込み制御アドレス信号により物理アド

レスが指定され、第1及び第2フレームメモリ10、12にルックアップテーブルのデータが書き込まれる。第1及び第2フレームメモリ10、12は、19個のサブフィールドに対応する19個のサブフィールドメモリ（図示せず）よりなり、このサブフィールドメモリは、例えば各画素 P_x の 640×480 （個）のサブフィールドデータを記憶する。このようにサブフィールドメモリに保持されたデータは、例えば32ビットずつ読み出されてシフトレジスタ $SR1 \sim SR20$ に保持される。

【0019】

640ビットのデータは1列に対応し、シフトレジスタ $DSR1 \sim DSR20$ に転送され保持された後、画素 P_x の1列のメモリに転送される。各画素 P_x にはデータを保持するメモリ（図2参照）が配置されている。順次、2列、3列、
・ ・ ・、480列を繰り返し、1サブフィールド分のデータ転送が終了し、全画素 P_x のメモリにデータが保持されたあと、全画素のメモリのデータに従い、液晶を駆動させる電圧がパルス幅変調器24とバッファ回路22を通して全画素電極に一括して印加され、各画素 P_x の液晶が同時に駆動される。その後は同様に2サブフィールド、
・ ・ ・ ・ ・、19サブフィールドにおける動作を行い、1フィールドの表示が終了する。第1フレームメモリ10からデータが読み出されている時間において、同時に第2フレームメモリ12にサブフィールド変換回路16からデータが書き込まれている。第1フレームメモリ10から1フィールド分のデータ読み出しが終了後、第2フレームメモリ12から1フィールド分のデータが読み出される。以後、第1及び第2フレームメモリ10、12は書き込み、読み出し動作を1フィールドごとに交互に行う。

【0020】

尚、ここでシフトレジスタ SR 、 DSR の数は、水平方向の画素を幾つに分割するかで決まる。この実施例では、水平方向を640画素を例としているので、1度に32bit（32画素）ずつ、信号を送るならば $640 / 32 = 20$ となり、それぞれ20個のシフトレジスタ SR 、 DSR が必要となる。またサブフィールドが19個ということは、上記の例では、水平640画素、垂直480画素で1サブフィールド画面分を構成すると、それが1フィールド（1/60秒）期

間中に 19 サブフィールドあることを意味する。

【0021】

各画素 P_x のメモリは、先に図 2 にて説明したように入力データを保持する SRAM (スタティック RAM) 回路 20 と、そのデータを画素電極へ転送するバッファ回路 22 からなる。上記 SRAM 回路 20 は、トランジスタ $Tr_1 \sim Tr_4$ により構成されたフリップフロップ回路で情報を記憶する。そして、スイッチ S_2 、 S_1 がそれぞれ列信号電極 D 及びこのデータの反転信号が流れる他方の列信号電極 $*D$ に接続される。データ線 D 、 $*D$ に流れる信号の ON/OFF により、シフトレジタ $DSR_1 \sim DSR_{20}$ の信号は、画素に構成された SRAM 回路 20 に同期して、行走査電極 $G_1 \sim G_j$ にパルスをかけることで SRAM 回路 20 に保持される。そして、バッファ回路 22 は図示しないスイッチを含み、パルス幅変調器 24 から制御される配線が接続されており、このパルス幅変調器 24 は、サブフレーム期間を記憶するルックアップメモリ 18 を参照し、このルックアップメモリ 18 により指定されたサブフィールド期間だけ、SRAM 回路 20 に記憶されたデータをバッファ回路 22 を介して画素電極 26 にパルス信号として印加し、液晶 LC を駆動する。

【0022】

このパルス信号として印加する際、本発明ではこのパルス信号のパルス電圧値も制御されることになる。すなわち、温度検出部 30 により液晶 LC の温度が常時検出されており、この検出値に応じてパルス電圧値制御部 28 は、係数メモリ 32 を参照しつつ上記パルス信号のパルス電圧値を制御し、温度依存性のある液晶 LC のガンマ特性の変化を相殺するように補償する。

具体的には、濃度検出部 30 で検出される液晶 LC の温度が例えば 46.7°C の場合には、この液晶 LC のガンマ特性の出力比は図 7 中の特性曲線 A のようにビット 50 (中間調部) の近傍をピークとして出力比が上昇している。このため、この時の補償係数は図 4 中で温度 46.7°C に対応する係数曲線 A1 で表される補償係数を用いる。この係数曲線 A1 は上記特性曲線 A とは略逆特性になっており、ビット 50 の近傍が最小となっている。そして、温度 40.7°C の時のパルス電圧値を基準として上記補償係数だけ重み付けすることによって、パルス電

圧値を増加したり、或いは減少させたりして温度変化に関係なく常に安定した階調表示を行うことができる。

【0023】

この場合、図4に示すグラフは単に温度の一例を示したに過ぎず、予測される使用範囲の温度について按分等の計算により、或いは記憶により全て補償係数が求められるようになっている。

ここでパルス信号の一例を説明する。図5はある1つの画素 P_x に印加されるパルス信号の一例を示す図である。1フィールドは19のサブフィールドSF1～SF19に分割されて、サブフィールド期間は、進行に従って次第に長くなっている。またパルス信号Pは1サブフィールド毎にその極性が反転されている。また隣接するサブフィールド間には、サブフィールド切り替えのために僅かな間だけパルス電圧値がゼロになっている。ここではパルス信号Pは、全てのサブフィールドで立てられる第1のパルス波（信号）P1と、画像信号に応じて、すなわちビット”1”（オン）の時に上記第1のパルス波P1に重畳されるようにして立つ第2のパルス波（信号）P2とにより形成されている。すなわち、上記パルス信号Pは、分割された複数のサブフィールドの期間に応じて形成された第1のパルス信号P1と、上記デジタル化された画像信号に応じて形成された第2のパルス信号P2とよりなる。

【0024】

上記第1のパルス波P1は、ビットデータが”0”の時も”1”の時も常時立っており、この電圧値V1は、液晶LCが駆動する閾値よりも僅かに小さい値に設定されている。第2のパルス波P2の電圧値V2は、これが第1のパルス波P1に、重畳された時に液晶LCが十分に駆動できる全体電圧値 $V_p (= V_1 + V_2)$ となるように設定されている。

ここでパルス信号Pのパルス電圧値を制御する態様には、以下の3種類がある。

①電圧値 V_p が一定となるような状態で電圧値V1と電圧値V2とを変化させる方法。

②電圧値V1のみを一定とし、電圧値V2を変化させる方法（電圧値V2の変

化に追従して電圧値 V_p も変化)。

③電圧値 V_2 のみを一定とし、電圧値 V_1 を変化させる方法 (電圧値 V_1 の変化に追従して電圧値 V_p も変化)。

【0025】

上記3態様について液晶の明るさの出力比の検討を行ったのでその評価結果について説明する。図6はパルス電圧値を変化させた時の出力比の変化を示すグラフである。図6(A)は上記①に対応して電圧値 V_p が一定になるようにして電圧値 V_1 、 V_2 を変化させた場合を示し、図6(B)は上記②に対応して電圧値 V_1 のみを一定にして電圧値 V_2 を変化させた場合を示し、図6(C)は上記③に対応して電圧値 V_2 のみを一定にして電圧値 V_1 を変化させた場合を示す。いずれの値も液晶温度が 40.7°C の時の明るさを基準として出力比を求めており、この点は図7において説明した場合と同じである。

【0026】

具体的には、図6(A)には、電圧値 V_1 を基準電圧よりも $+0.05\text{V}$ とし、且つ電圧値 V_2 を基準電圧よりも -0.05V とした場合と、電圧値 V_1 を基準電圧よりも -0.05V とし且つ電圧値 V_2 を基準電圧よりも $+0.05\text{V}$ とした場合とを示す。この図6(A)から明らかなように、両特性曲線共に、ビットが”0”(低階調部)の近傍で出力比が”1”よりも大きな差があり、ビットが増加するに従って、すなわち高階調部に向かうに従って、次第に”1”に向かって集束している。従って、この両特性曲線は、図7に示す特性曲線と形状的にかなり異なっており、図6(A)に示すような制御態様はあまり好ましくないことが確認できた。

【0027】

図6(B)には、電圧値 V_2 を基準電圧よりも $+0.05\text{V}$ とした場合 (電圧値 V_1 は一定) と、電圧値 V_2 を基準電圧よりも -0.05V とした場合 (電圧値 V_1 は一定) とを示す。この図6(B)から明らかなように、ビットが”50”～”70”程度 (中階調部) の近傍で出力比が”1”よりも最も大きくずれ、それよりビットが小さくなるに従って、或いは大きくなるに従って出力比略”1”に向かって共に集束している。従って、両特性曲線は図7に示す特性曲線と形

状的にかなり似ており、図6 (B) に示すような制御態様は図7 に示すような特性曲線を相殺するように補償する上で非常に有効であることが確認できた。

【0028】

図6 (C) には、電圧値V1を基準電圧よりも+0.05Vとした場合（電圧値V2は一定）と、電圧値V1を基準電圧よりも-0.05Vとした場合（電圧値V2は一定）とを示す。この図6 (C) から明らかなように、ビットが”40”～”60”程度（中階調部）の近傍で出力比が”1”より最も大きくずれ、それよりビットが小さくなる場合は出力比略”1.1”或いは略”0.9”に向かってそれぞれ集束し、ビットが大きくなる場合には出力比略”1”に向かって集束している。従って、両特性曲線は図6 (B) に示す場合程ではないが、図7 に示す特性曲線と形状的にかなり似ており、図6 (C) に示すような制御態様は図7 に示すような特性曲線を相殺するように補償する上でかなり有効であることが確認できた。

【0029】

以上の結果より、図6 (B) 及び図6 (C) に示すように電圧値V1やV2を種々異ならせた特性曲線、例えば基準電圧より±0.01V、±0.02V、±0.03V …… ±0.1Vだけそれぞれ異なったパルス電圧値を印加した時の特性曲線（40.7℃を基準とする）を求めておき、図7 に示す特性曲線と略逆特性になる特性曲線を予め温度をパラメータとして関連づけておき、これを図1中の係数メモリ32に記憶させておくことになる。

これにより、前述したように温度検出部30の検出値に基づいて係数メモリ32を参照することによって適正な補償係数を求め、この補償係数によりパルス信号の電圧値を変化させることにより、温度依存性によって変化した液晶LCのガンマ特性を補償して、適正な階調表示を行うことができる。

【0030】

また、図3に示すように1フィールド（TVフィールド）を、異なる表示期間をもつサブフィールドSF1～SF19に分解し、これを表示期間の小さい順番に配列し、オン状態（”1”が立っている）のサブフィールドは、隣接する階調レベルにおいて1サブフィールド移動し、最小表示期間からオン状態となってい

ないサブフィールドの中で最大表示期間のサブフィールドまで移動し、オン状態となっていないサブフィールドの中で最大表示期間のサブフィールドがオンとなっている（例えば階調レベル 21～36 を参照）。オン状態となっていないサブフィールドの中で最大表示期間のサブフィールドがオンした場合、それ以上の階調レベルにおいては、当該最大表示期間のサブフィールドはオン状態を保持し、隣接する階調レベルが、1 サブフィールド移動し、最小表示期間からオン状態となっていないサブフィールドの中で最大表示期間のサブフィールドまで移動する。この様な駆動方式にすることで、表示した時の擬似輪郭が表示されなくなるメリットがある。

【0031】

尚、上記実施例において図 3 に示すサブフィールドの構成は単に一例を示したに過ぎず、これに限定されない。例えば階調レベル数を 256 段階より増加、或いは減少させてもよく、サブフィールド数を 19 より増加、或いは減少させてもよく、各サブフレーム期間を全て同一となるように設定してもよい。

また図 5 に示す第 1 のパルス波 P1 と第 2 のパルス波 P2 のパルス幅は共に同じとなるように設定したが、これに限定されず、例えば第 2 のパルス波 P2 のパルス幅を、第 1 のパルス波 P1 のパルス波に対して常に一定の比率で小さくなるように設定してもよいし、データが“0”の時は第 1 のパルス波 P1 が立たないようにした制御でもよい。また、図 2 に示す画素 P_x の構成もこれに限定されない。

更には、フルカラー表示の画像表示装置の場合には、RGB の各色に対して上述のような補償を行うのは勿論である。

【0032】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の画像表示装置によれば、温度に依存して変化する例えば液晶等の表示手段のガンマ特性を補償することができ、適正な階調表示を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の画像表示装置を示す構成図である。

【図 2】

1つの画素に対するパルス駆動回路の一例を示す図である。

【図 3】

階調レベルとサブフィールドとの関係を示す図である。

【図 4】

温度に対する補償係数の一例を示す図である。

【図 5】

1つの画素 P_x に印加されるパルス信号の一例を示す図である。

【図 6】

パルス電圧値を変化させた時の出力比の変化を示すグラフである。

【図 7】

ガンマ特性が変化してしまうデメリットがあった。

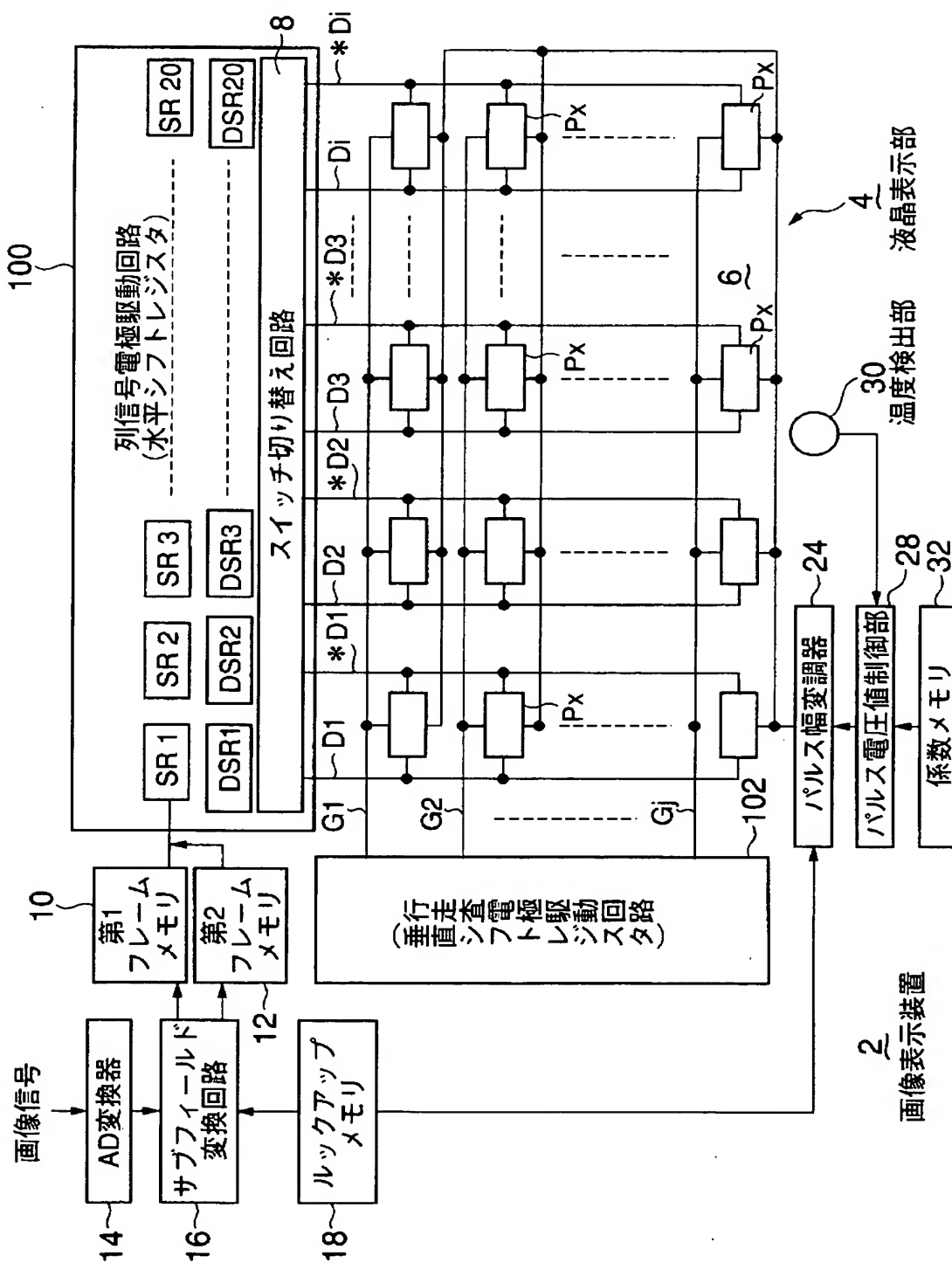
【符号の説明】

2…画像表示装置、4…液晶表示部（表示手段）、10…第1フレームメモリ、12…第2フレームメモリ、16…サブフィールド変換回路部、24…パルス幅変調器、26…画素電極、28…パルス電圧値制御部、30…温度検出部、32…係数メモリ。

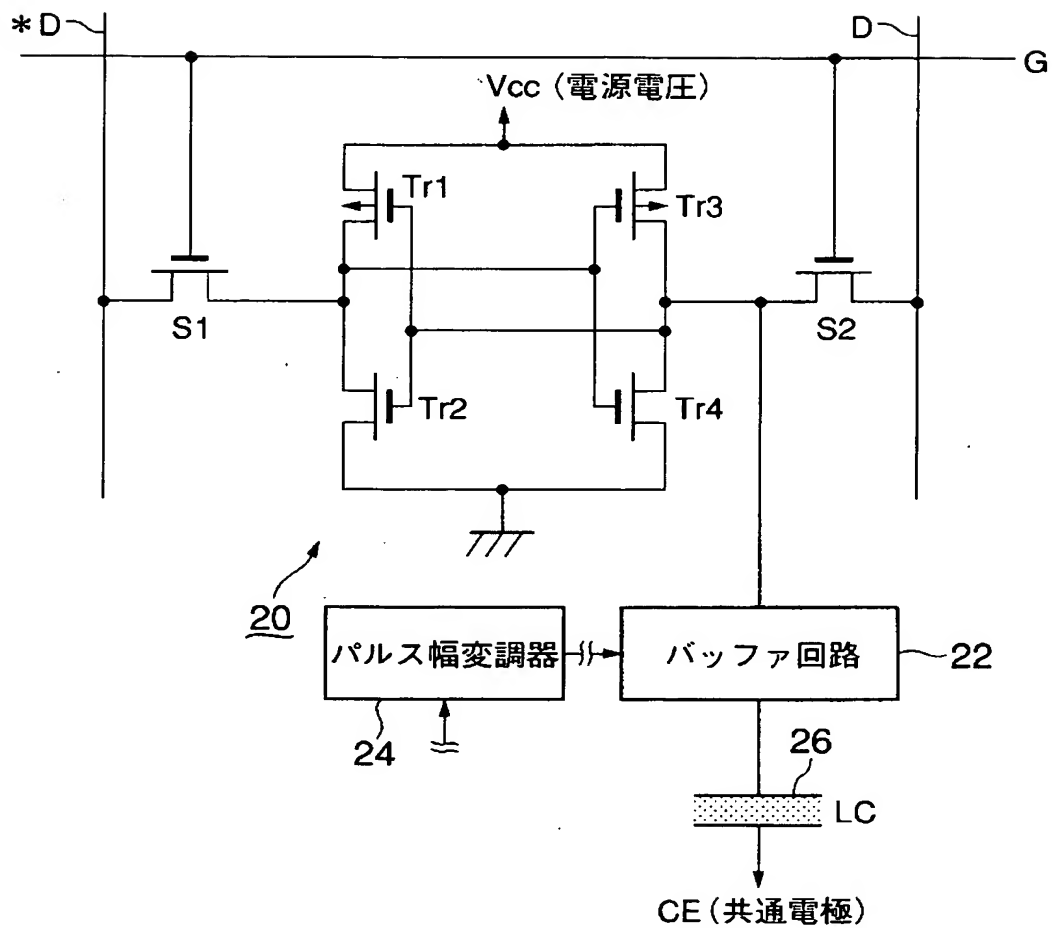
【書類名】

図面

【図 1】



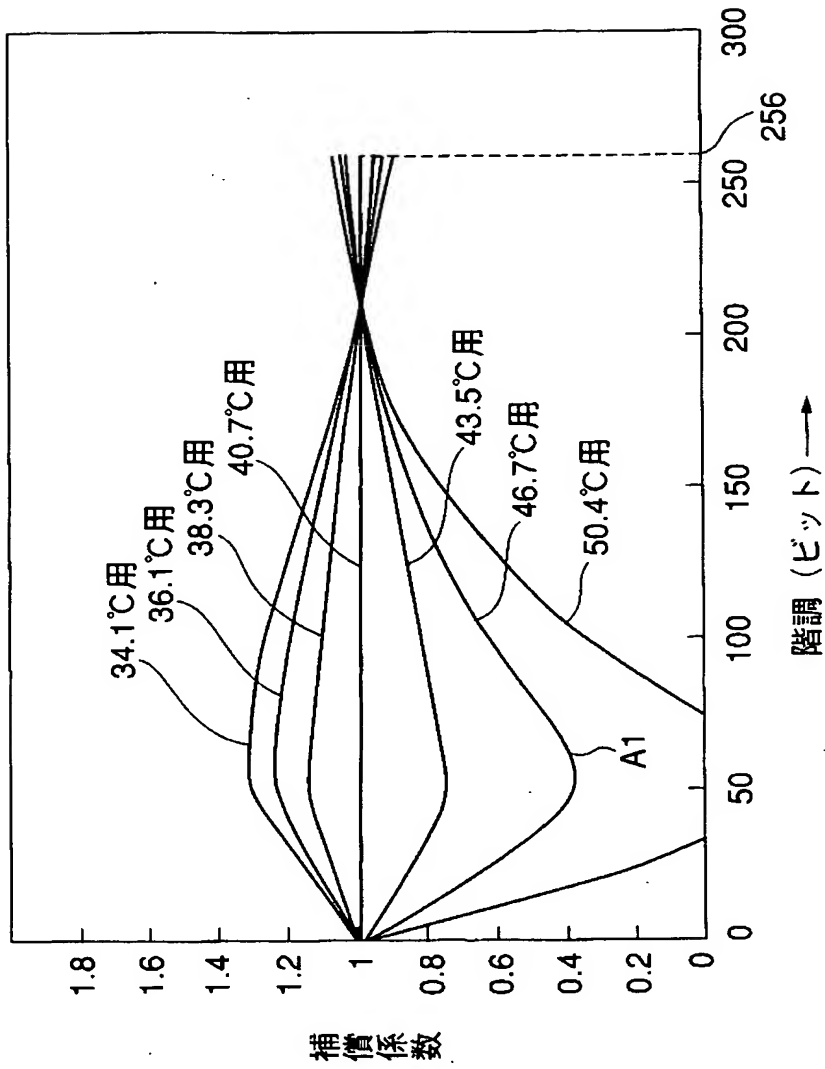
【図 2】



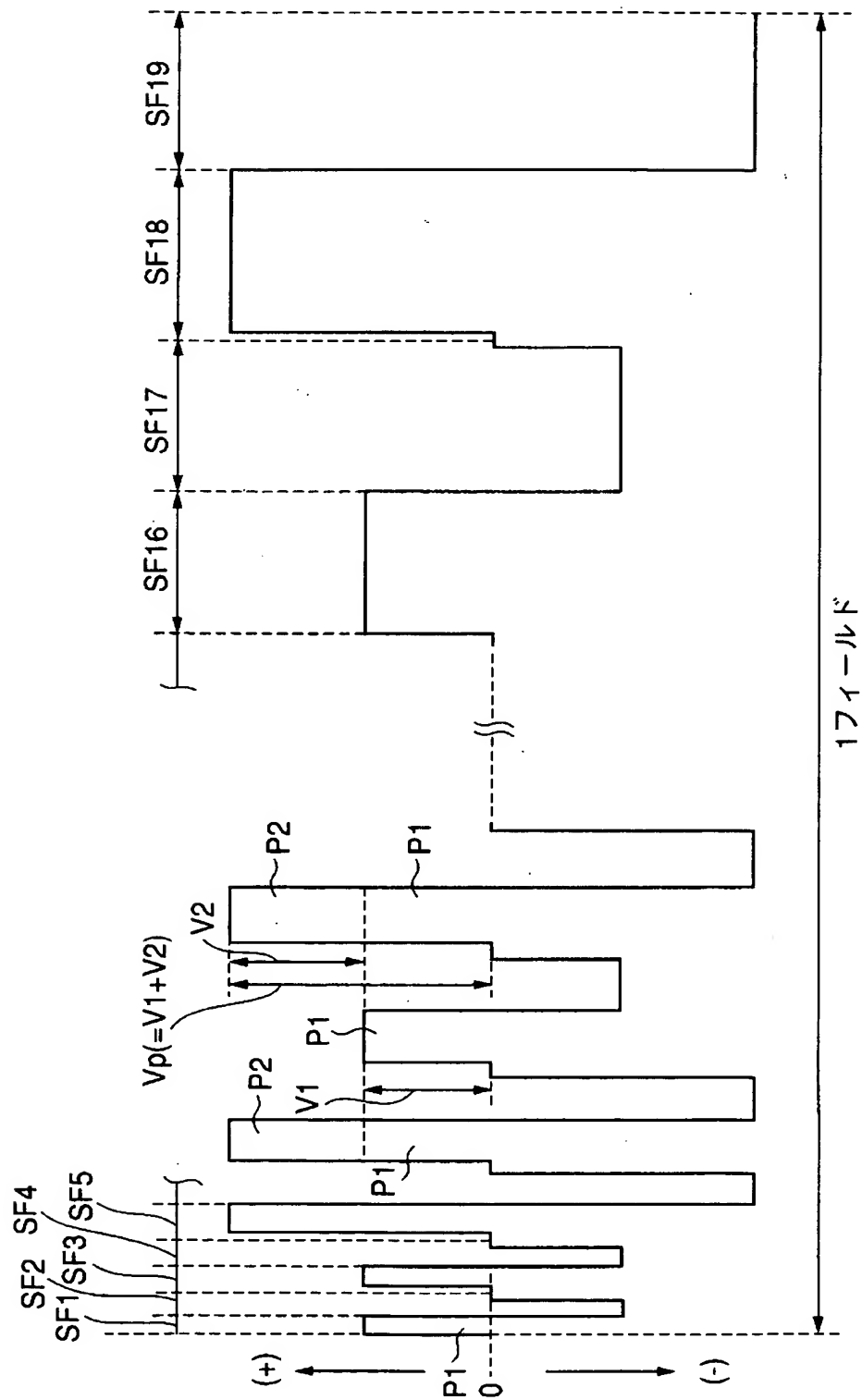
【図 3】

[illegible]

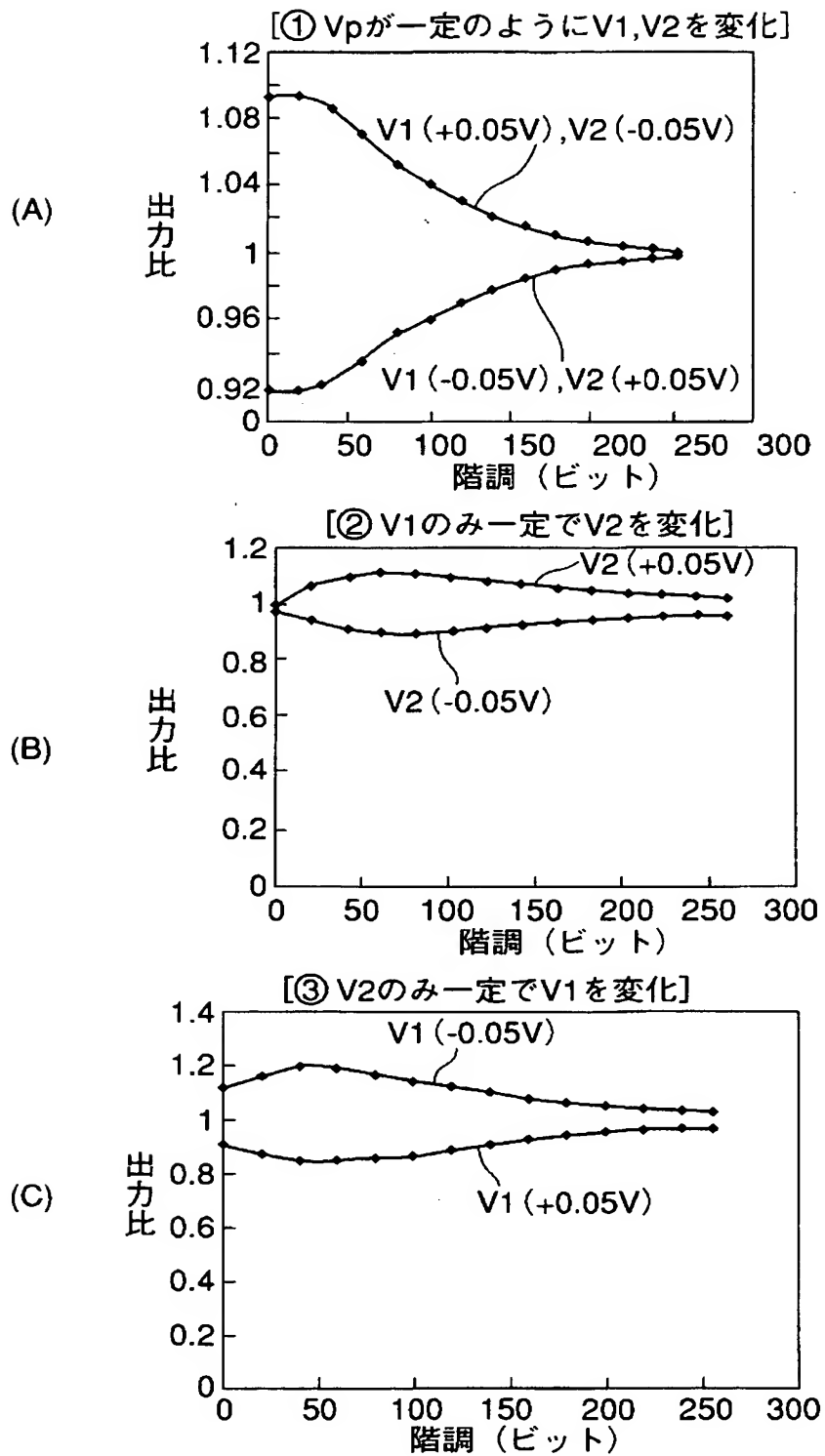
【図 4】



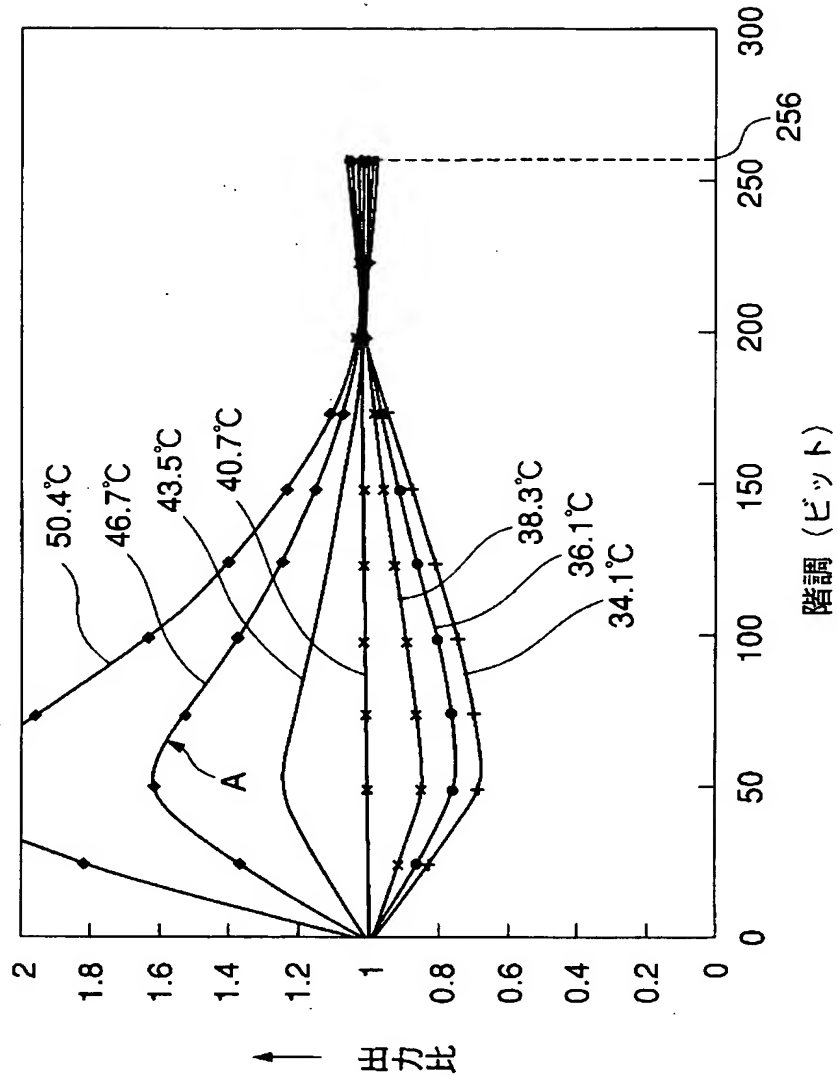
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書**【要約】**

【課題】 温度に依存して変化する液晶のガンマ特性を補償することが可能な液晶表示装置を提供する。

【解決手段】 デジタル化された画像信号を、複数の画素がマトリクス状に配置された表示手段 4 に印加して表示するに際して、動画像擬似輪郭の発生を抑制するため、前記画像信号の 1 フィールドを複数のサブフィールドにより構成し、前記サブフィールドを配列順に従って選択的にオン、またはオフ表示して前記画像信号に基づいた画像を表示する画像表示装置において、前記表示手段の温度を検出する温度検出部 3 0 と、前記温度検出部の検出値に応じて、前記表示手段のガンマ特性の変化を補償するように前記パルス信号のパルス電圧値を制御するパルス電圧値制御部 2 8 と、を備える。これにより、温度に依存して変化する例えば液晶のガンマ特性を補償する。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 0 5 6 2 8 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 4 3 2 9]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 8 日

[変更理由]

新規登録

住 所

神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3 丁目 1 2 番地

氏 名

日本ビクター株式会社